

## 式辞

春の息吹が感じられる今日の佳き日、保護者の皆様や同窓会長様の御臨席を賜り、第71回滋賀県立膳所高等学校卒業証書授与式を挙行できますことは、本校にとりましてこの上ない慶びとするところであります。

保護者の皆様には、3年間の高校生活を経て、立派に成長してこの日を迎えられたお子様の姿を御覧になり、感慨も一入のことと存じます。改めまして心よりお祝い申し上げますとともに、この間、本校の教育活動に多大の御支援、御協力を賜りましたことに対しまして、高いところからではございますが深くお礼申し上げます。

さて、ただ今卒業証書を授与された卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。膳所高校での3年間を振り返り、皆さんの胸には今、どんな思いが宿っていますでしょうか。

皆さんは令和2年4月に、令和になって迎える最初の入学生として高校生活をスタートされ、新しい時代の歩みとともに、ここ膳所の地で青春の日々を過ごされてきました。

毎日の授業やその予習と班活動などとの両立は大変だったでしょうが、仲間と励まし合いながら、一日一日の営みを積み重ね、高校3年間の課程を全て修了されて、今日、卒業の日を迎えられました。その努力を心から讃えたいと思います。

その日々の中には、順調なことばかりではなく、思うようにならないこともあったでしょう。特に、新型コロナウイルス感染症の流行により、皆さんは、中学3年生の終わりから全国一斉臨時休業となり、中学校の制服で入学式を迎えたかと思えばすぐに、5月末まで再び臨時休業となりました。やっと登校できるようになっても、みんなマスク姿で毎日を過ごし、学習や班活動、学校行事などに大きな制約を受けました。緊急事態宣言が発令されたため、2年生での校外学習が二度にわたって実施できなかったこと、学年

ごとに時間差をつけて登校したこと、班活動が中止になったり、活動範囲が限定されたりしたこと、お昼御飯を黙って食べなければならなかったこと。

感染拡大防止のためにやむを得なかったとはいえ、本当なら友人たちと賑やかに語り合い、笑い合い、スポーツや文化活動に思う存分打ち込みたかったことと思います。けれども様々な困難や理不尽さの中でも皆さんは、課題解決に向け、仲間と力を合わせ、困難を乗り越えてきました。

皆さんは、2年生での修学旅行を、一人の感染者を出すこともなく成功させました。特に、膳所高祭を、「全員参戦～膳所高祭冬の陣～」をスローガンに実施し、この修学旅行をみんなで楽しもう、そしてその成果を湖風祭に繋げていこう、という思いを共有し、クラスや学年の絆を深めました。

湖風祭も「翔べ！湖風雲児<sup>ふううんじ</sup>～いざ、誰も知らない湖風祭へ～」をテーマとして、それまでとは違う、誰もまだ見たことがないほどに素晴らしい、独創的で感動的な湖風祭を、という意気込みを込めて創りあげました。湖風祭に懸ける皆さんのエネルギーは、爽やかな風を吹き起こし、膳所高校を包み込みました。

班活動においても、感染リスクに配慮しながら工夫して練習に取り組み、全国や近畿の大会にも多くの班が出場するなど、大変よい結果を残してくれました。

この間に学ばれたことは、これからの人生においてもきっと皆さんを支えてくれるに違いありません。

湖風祭や班活動でのこうした皆さんの姿は、後輩たちの素晴らしい手本にもなりました。皆さんが残してくれたものの大きさに、心からの敬意と感謝を贈りたいと思います。

さて、皆さんはこの学び舎を巣立ち、新しい世界へと進んで行くわけですが、これから

の世界は、先行きが不透明で予測困難な、従来の常識が通用しなくなる社会だと言われています。今も私たちの周りには、人口減少と少子高齢化、資源とエネルギーの問題、地球規模の気候変動や感染症、大規模災害、戦争等、様々な大きく困難な課題があります。また、これからの世界は、デジタル化、人工知能の発展などにより、人の働き方や生き方を含めた社会全体の構造が覆されるような、広く深い変化に直面することでしょう。

その世界を、これからよりよいものとしていくのは皆さんです。未来の社会はどうしようもないものとして立ち現れてくるのではなく、皆さんが主権者として主体的に創っていくものです。

皆さんには、自分の良さや強みを生かせる分野で社会に主体的に参画し、よりよい未来を形作っていく一翼を担ってください。

そしてどのような分野に進まれても、その道における熟達者になってほしいと思います。熟達者とは、自らの仕事を熟知したエキスパートであり、その場におけるかけがえのない存在として、必要とされる人のことです。

そのためには、自分の良さや強みがどこにあるのか、自分自身についてよく知るとともに、その良さや強みをさらに磨き、この仕事に関しては誰にも負けない、と誇れるようなレベルへと高めていくことです。

認知心理学の知見によれば、熟達者は、ある領域での長期の経験を積むことによって多くの知識・技能を獲得し、その領域での課題について非常に優れた問題解決ができるようになった者、と定義されます。そして一流の熟達者になるには10年以上の集中的な練習が必要だと言われています。その決して楽ではない熟達の過程において重要なものが二つあるそうです。一つは師匠や先輩など、多くの経験を積んだ人の存在、もう一つ

は社会組織や制度の中で、様々な形で蓄積された知識や情報といったものです。つまり熟達の過程は個人の孤独な努力によるものではなく、先人の知恵が集積するコミュニティの中で、先生や先輩などからいろいろな知識や技能を教えられ、手を貸してもらいながら行われるものだということです。

皆さんは今まで、膳所高校というコミュニティの中で、探究活動をはじめ多くの学びを重ねてきましたが、熟達者への道のりを考えると、まだほんの入口に立ったばかりです。これから大学や大学院、さらにはその先の社会へと皆さんの学びは続いていきます。

これから皆さんが入って行く新たなコミュニティの中で、自分の良さや強みを生かせる道を見つけ、その道での熟達者を目指して、様々な人と対話を重ね、探究的な学びを積み重ねながら、力を伸ばして行ってほしいと思います。膳所高校での経験もこれからの皆さんを支える力となるはずです。

それでは、卒業生の皆さん、名残は尽きませんが、時代を超えて受け継がれてきた本校の精神、校訓である「遵義・力行」を胸に深く刻み込み、自分らしくそして膳所高校の卒業生らしく、自分の良さや強みを活かして活躍され、心豊かな人生を送られることを願って、式辞といたします。

令和5年3月1日

滋賀県立膳所高等学校

校長 富江 宏